

ガスの節約につながる 省エネ方法のご紹介

ガス機器の使い方を少し工夫するだけで、誰でも簡単に省エネに取り組むことができます。

日頃から省エネな暮らしを実現するために、ガス機器のかしこい使い方をご紹介します。

無理のない範囲で省エネな暮らしを実現しましょう。

ご家庭でできる省エネ方法

キッチン編

ガスコンロの炎は
鍋底からはみ出さないようにする
はみ出た炎は鍋を温めないので無駄になります。



鍋に火をかけるときには
蓋をする
蓋することで熱が逃げにくくなります。



給湯の設定温度を下げる
(例: 40°Cから37°Cへ)
リモコンで風呂優先を切り、温度を設定しましょう。



バスルーム編

高効率給湯器
(エコジョーズ)に交換する
給湯器を高効率なエコジョーズ(潜熱回収型給湯器)へ取り替えると、ガスの使用量を大きく減らせます。



シャワーの時間を
ひとり1分間短縮する
シャワーを使う時は、お湯を出しっぱなしにせず、必要なときだけ出るようにしましょう。



お風呂の設定温度を下げる
(例: 42°Cから40°Cへ)
熱いお風呂はヒートショックの原因になります。



居室編

ガスファンヒーターの
暖房設定温度を2°C下げる
(例: 22°Cから20°Cへ)

あわせてお部屋で着る衣服を工夫しましょう。



寝る前は床暖房の余熱を活用するため少し早めにスイッチを切る
スイッチを切る目安としては寝る30分ぐらい前がおすすめです。



オフィスビルでできる省エネ方法

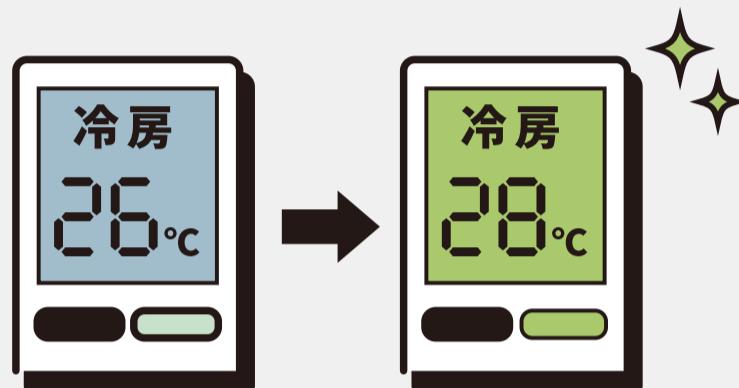
空調

空調の設定温度の適正化

ガス吸収冷温水機の設定温度を冷房、暖房とも2°C緩和することにより、空調用のエネルギーを節約できます。

冷暖房の設定温度を
2°C緩和

空調用エネルギー
-4~6%



一般財団法人省エネルギーセンターの事例を参考に日本ガス協会にて作成。

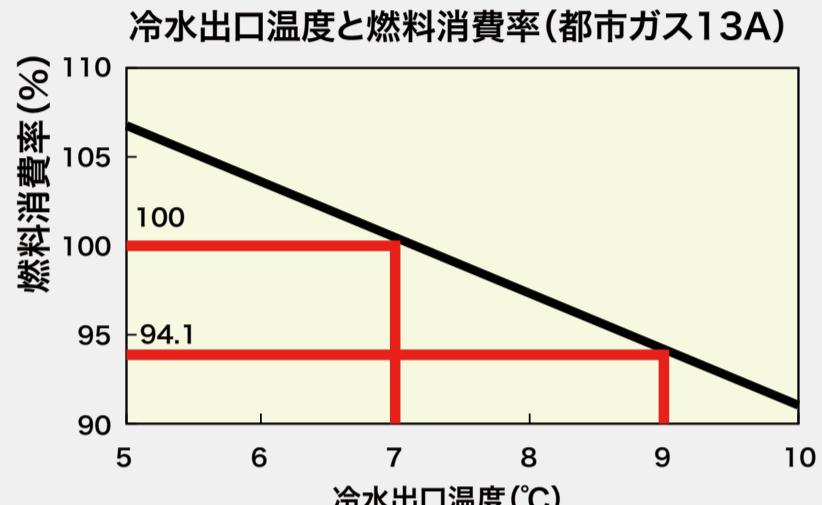
空調

ガス吸収冷温水機の 冷水出口温度調整

冷房負荷が低減する中間期に空調機の能力が低下しない範囲でガス吸収冷温水機の冷水出口温度を上げることで、空調用のガス使用量を節約できます。

冷房時の冷水温度を
7°C→9°Cに変更

都市ガス使用量
-5.9%



一般財団法人省エネルギーセンターの事例を参考に日本ガス協会にて作成。

空調

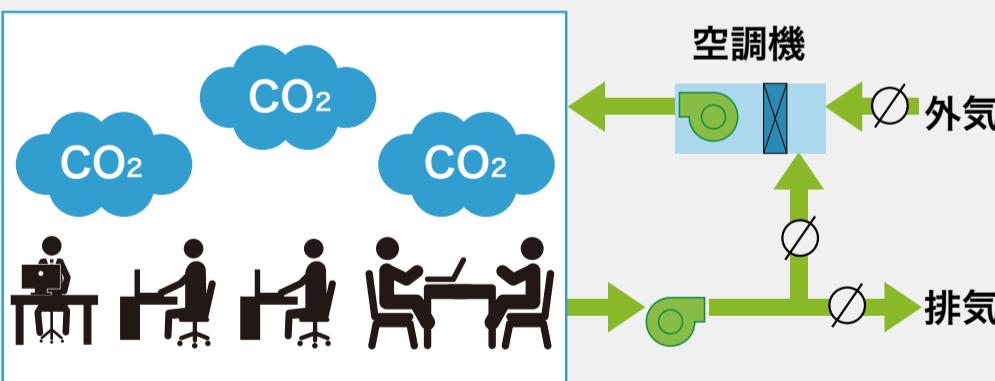
外気導入量の低減

室内の二酸化炭素濃度が建築物環境衛生基準1,000 ppmを超えない程度まで外気導入量を削減することにより、空調用のエネルギーを節約できます。

外気導入量
の適正化

空調用エネルギー
-3~8%

CO₂は1,000ppm以下に維持



一般財団法人省エネルギーセンターの事例を参考に日本ガス協会にて作成。

空調

空調起動時間の適正化

始業時間より早く空調設備を起動している場合、この起動時間を遅らせることにより、空調用のエネルギーを節約できます。

空調起動時間
の適正化

空調用エネルギー
-6%



一般財団法人省エネルギーセンターの事例を参考に日本ガス協会にて作成。

※上記の省エネ率は一定の条件の下での試算結果であり、各々の利用状況により効果は異なります。